

自然の観察あそび

ドングリ拾い、キノコ採り

立市陽城 立市陽城 NPOから講師招き
久世保育園

社会福祉法人清仁福祉会が運営委託を受けてる公設民営の市立久世保育園(松岡和子園長)は18日、「自然の観察あそび」を行い、園児たちがドングリ拾いやキノ

コ採りなど、楽しく遊びながら自然について学んだ。

この催しは、今年5月に同園に太陽光発電パネルを設置するおひさま発電所「事業に携わったNPO法人・きょうとグリーンファンド」京都市下京区の協力のものと行われ、理事長である京都精華大学教授の板倉豊さんと、助手で同大学4回生の水野詩子さん、グリーンファンド事務局の深川佳子さんの3人が園児たちの先生役を務めた。

同ファンドでは、原子力発電から太陽光発電をはじめとする自然エネルギーにシフトしていかなければ地球はダメになる」との考え

に基づき、子供たちに地球温暖化について考えてもらう取り組みを展開。この日も、その一環として園児たちが普段、遊び場としている久世神社の境内で、楽しみながら学べる「自然の観察あそび」を企画した。

遊びを通じて板倉さんらは、コナラの木に「カミノナガキクイムシ」が発生すると、樹木から粉が噴出し、やがて木の水分がなくなり、放置しておくとも枯れてしまう「ナラ枯れ」という伝染病にかかってしまうことを園児らに教えた。このような状況が続くと、園児たちが大好きなドングリも、いつかは無くなってしまふことに

成りかねない。

また、助手の水野さんは「自然にたくさん触れることを大切にしたい」と語りつつ、園児たちと一緒になっ

てドングリ拾いなどを行っていた。園児たちは、この「自然の観察会」を通じて、環境の大切さを学び、心身ともに成長した様子だった。



ドングリを拾い、観察する園児たち